

関係者ヒアリング結果概要

1 日時

令和6年9月13日（金）9時30分～13時10分

2 場所

岐阜県立東濃高等学校

3 対象者

岐阜県立東濃高等学校 吉田校長、和田国際部長、在校生 ほか

4 対応者

出入国在留管理庁政策課外国人施策推進室 佐藤室長 ほか

5 内容

（吉田校長、和田国際部長等との意見交換）

- 当校は全校生徒の約6割の約190名が外国につながる生徒たちである。生徒の国籍は、フィリピン、ブラジル、ペルー、ネパール等、日本国籍の生徒も含め10ヵ国に及ぶ。日本語の指導が必要な生徒は中学校や自治体、地域のNPOなどで初期指導を受けて当校に入学するケースが多く、入学後も国や県、様々な機関、団体、地域の御協力を頂き、一人一人に寄り添った指導を行っている。
- 当校の日本語教育では、自己肯定感を育みながら、社会課題に対して自分の意見を持ち、解決に向かうことができる生徒の育成を目指し、「日本語を育てる」教育を推進している。また、学校全体でもキャリア教育プログラムでは企業のリサーチをし、それをまとめ、発表するなど、様々な活動の中で経験する機会を設け、充実させている。
- 生徒は、日本語の「読む」、「書く」、「話す」のそれぞれについて習熟度が異なるだけでなく、複言語の力もまた個によって異なる。ある生徒は書くのは得意だが話すことに課題がある等、一人一人状況は異なっているため、日本語教育では日本語だけでなく生徒がもつ全ての言語リソースを一人一人丁寧に見取りながら授業を行っている。
- 多様な外国につながる生徒の実態に応じて、生徒たちが情報や知識にアクセスし、思考力を高めることができるよう工夫している。また、校内の案内や書類、テスト問題にもルビを振っている。令和3年度から国際部を教務部から独立させ、多言語で外国につながる生徒を支援できるような体制づくりをしている。
- 外国につながる生徒たちは勉学のみならず、学校生活においても大いに活躍している。例えば、最近では生徒会役員の全員が外国につながる生徒であったり、近隣の小中学校での英語交流に参加したりしている。
- 日本語能力試験（JLPT）のN1（幅広い場面で使われる日本語を理解することができる）やN2（日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い

場面で使われる日本語をある程度理解することができる)を受験する生徒も多い。毎年、多数の生徒が合格している。

- 外国につながる生徒たちが懸命に学ぶ姿を見て、日本人の生徒たちの中にも、将来の選択肢の一つとして日本語教師を考える者も出てくるなど、良い相乗効果がある。
- 日本語の授業は、生徒が興味・関心のあることの中から単元計画を立案しており、1年生の「日本語Ⅰ」では、9月から「音楽」のトピックを学習している。社会的自立を目指した日本語を身に付けさせる教育は、東京外国語大学の小島祥美准教授をはじめ、大学等の専門機関の様々な方々の御協力を頂き、令和4年度より実施している。
- 卒業後の進路について、就職を希望する外国につながる生徒たちの多くが、地域の企業への就職を選択肢に入れている。地域の企業も非常に協力的であり、企業見学等を受け入れてくれる。このような企業見学等を通じ、就職先を決める事例も多い。なお、以前、企業からは、就職に当たって「スキル向上や業務継続性の観点から5年は辞めないで働いて欲しい。」、「研修日誌を書くことができる等、一定の日本語読み書きができるようにして欲しい。」との要望があった。
- また、進学を希望する外国につながる生徒たちも多く、懸命に学んでいる。今春(令和6年度)の入試は、国立大学にも入学している。
- これまで、当校に在籍する生徒は日本社会や学校生活になじめず、周囲から孤立し、辛い思いをしてきた子どもたちが少なくない。一人一人が様々な悩みを抱え、傷つきながら生きてきた。その中で、自分はどうすればよいのか、どのように生きていけばよいのかを懸命に考えてきた子どもたちがいる。ぜひとも、彼ら彼女らの胸のうちを聞いてほしい。

(吉田校長、和田国際部長等との意見交換後、日本語授業の一環として生徒たちとの面談形式での意見交換を行った。概要は以下のとおり。)

Q. あなたが東濃高校を選んだ理由を教えてください。

- A. ・姉が東濃高校に通っており、良い高校だと言っていたのでこの高校を選びました。
- ・友だちに相談したとき、東濃高校は外国人の生徒が多くて馴染みやすそうだと
言っていたのが、この高校を選んだ理由です。

Q. 東濃高校に通ってみて、楽しかったことや苦勞したことは何ですか。

- A. ・楽しかったことはたくさんあって選べないです。苦勞したのは日本語かな。
- ・部活動や学校祭が楽しかったです。苦勞したのは日本語の勉強です。

Q. 高校の先生方のサポートの中で特にありがたいと思ったことは何ですか。

- A. ・丁寧に日本語を教えてくれたことです。
- ・日本語に限らず、先生が一生懸命教えてくれたことが上手にできなくても、諦めずに教えてくださったことがありがたかったです。

Q. 学校以外に相談できる人がいますか。

- A. ・はい、います。姉です。
- ・友だちに相談できます。

Q. 市役所や入管にも相談の窓口があることを知っていますか。

- A. 知りませんでした。

Q. 日々の生活を送る上で、困っていることはありますか。

- A. ・日本語が話せなくて困ったときは、携帯の翻訳機能を使っています。私の日本語が通じないときは、いつも困ります。
- ・スーパーやレストランなどで、相手が言っていることが分からないことがあると、もう一度聞き直しています。

Q. 進学先・就職先はどのようにして決めましたか。

- A. ・親に相談して就職することに決めました。
- ・先生に相談して食品関係の会社に就職することに決めました。

Q. 就職活動に関して困っていることはありませんか。

- A. 日本語が一番のハードルになっています。

Q. 日本語の勉強法を教えてください。

- A. ・私は小学6年生の時に来日しましたが、中学時代は日本語を話すことができず、学校で辛いことが沢山ありました。普段の生活でも、病院や買い物にも苦労しました。東濃高校で初めて日本語を学ぶことができ、日本語を話すことができるようになりました。学校での友人もできました。
- ・私は小学生の時に来日しましたが、読み書きが苦手であったため、とにかく日本語で会話をするようにして、日本語を覚えていきました。

Q. 生活する上での必要な情報はどこから得ていますか。

- A. 高校の先生から、日本語の学習についての情報や、就職関係の情報等を教えて

もらっています。

Q. 普段はどのような方法でニュースを見ていますか。

A. インターネットかSNSで見えています。

Q. 入管庁のホームページは見たことがありますか。

A. ありません。

Q. 日本に来た時に困ったことがあれば教えてください。

A. 私は高校に入る前にブラジルから日本に来たのですが、ブラジルにいた時、日本の日常生活についての基本的なことを知りませんでした。例えば、ブラジルと日本の気候の違いです。ブラジルから日本の空港に到着した時、私は温かい服を持っておらず、空港で非常に寒い思いをしたことを覚えています。

また、アパートを探すのに、本当に苦労しました。日本語をあまり話すことができない外国人に部屋を貸してもよいという大家さんが少ないため、みんな、家を探すのに困っています。

これから日本に来る外国人が、自分の国から日本に到着し、住むまでの一つの流れの中で必要となる情報を、自分の国にいたときから知ることができていればよいと思います。

Q. 入管庁の生活オリエンテーション動画の印象や、改善すべき点について考えを聞かせてください。その他、御意見・御要望があれば教えてください。

A. ポルトガル語やミャンマー語など、色々な言葉で動画が作られていることに驚きました。これはとても便利だと思います。

改善点について、日本に来た外国人、特に若い外国人が経験する大きな壁があります。それは、自国と日本の文化の違いです。

世界には、ブラジルのように、人との距離感の近い文化、音楽が大好きな文化、週末、家で家族や友達と大きな音楽をかけてパーティーをすることを人生の何よりの楽しみとする文化、電車などの乗り物の中で携帯電話で友達と大きな声で話すのが普通の文化があります。一方で、日本のように、人と一定の距離を保ち、礼儀を大事にし、静かで穏やかな生活を送ることを重視する文化があります。ブラジル人も日本人も、多くの人は自分の文化を絶対的なものだと考え、自分の文化に合う生活スタイルを送ることを当然と考えていると思います。このため、自分の文化しか知らない若いブラジル人が、悪気なく、家で音楽を楽しむ結果、周りの日本の人たちとトラブルになってしまうケースが発生しているのではないかと思います。また、日本社会でふさわしい言葉遣いと、ふさわしくない言

葉遣いがあります。

また、ブラジルではタトゥーは悪いことではありませんが、日本では良くないこととしてとらえられます。

こういった、文化的な違い、考え方の違いについてYouTubeなどで外国人に対し広く知らせると、外国人が壁を感じることなく日本で生活しやすくなり、トラブルも起こりにくくなると思います。文化や考え方の違いについての知識や情報が広く知られるとよいと思います。

その他、特に若い外国人の中には、在留カードの重要性を分かっていない人がいます。ぜひとも在留カードの重要性について広く知らせた方がよいと思います。

また、岐阜にはブラジル人が集まって交流するフェスティバルがないので、そのようなフェスティバルのある群馬や千葉がうらやましいです。

Q. 若い世代の外国人の方々に広報するための方法をアドバイスしてください。

A. (フィリピン人の若者に対しては) 教会を中心としたコミュニティへの周知が重要と考えます。私も定期的に教会でつながった人たちとバスケットボール等をしていますが、そういった場で色々な情報を入手することが多く、すぐに情報も広がります。

以上